■ 研究ノート

追手門経営論集，Vol.31, No.1,「別冊」
pp.41-48, June, 2025

世界自然遺産・知床でのアウトドア観光における ユニバーサル対応について

西尾 建・石盛 真徳

Universal Accessibility in Outdoor Tourism:
A Case Study of Shiretoko

Tatsuru NISHIO
Masanori ISHIMORI

Otemon Business Management Review, Vol.31, No.1

追手門経営論集，Vol.31, No.1,
pp.41-48, June, 2025
Received April, 9, 2025

世界自然遺産・知床でのアウトドア観光における ユニバーサル対応について

西尾 建・石盛 真徳

1. はじめに

筆者らの研究グループは、2023 年度より科研費の助成を受けて「アウトドア観光における共生モデルの研究」というプロジェクトに取り組んでいる（西尾，2025）。本プロジェクトでは、従来のアウトドア観光研究が主に健常者を対象としており、高齢者や障がい者に対する配慮が十分に行われていなかったという課題認識に基づき、世界遺産地域やジオパーク等におけるアウトドア観光についての調査を実施している。これまでジオパークの調査を通して、高齢者および障がい者向けのコース提案などソフト面での情報の充実および電動車いすなどのサービス提供などの提言を行ってきた（西尾，2025）。本研究報告は、このプロジェクトの一環として、知床を対象に、ユニバーサルなアウトドア観光を実現するために必要な要素を検討するものである。

2. 世界自然遺産としての知床

知床は北海道東部のオホーツク海に面する半島であり、その独自の生態系と豊かな自然環境が評価され、2005 年に国連教育科学文化機関（ユネスコ）世界自然遺産に、日本では、1993 年の白神山地、屋久島に次ぐ 3 カ所目として登録された（渡辺ら 2008）。生態系の進化や発展の顕著な例、および絶滅危惧種を含む生物多様性の保護が評価されたことに加えて、「しれとこ 100 平方メートル運動」など地域の自然を守り育てる市民の活動の価値が認められたことも世界遺産登録を後押しした（村田，2006；知床自然センター，2025a）。

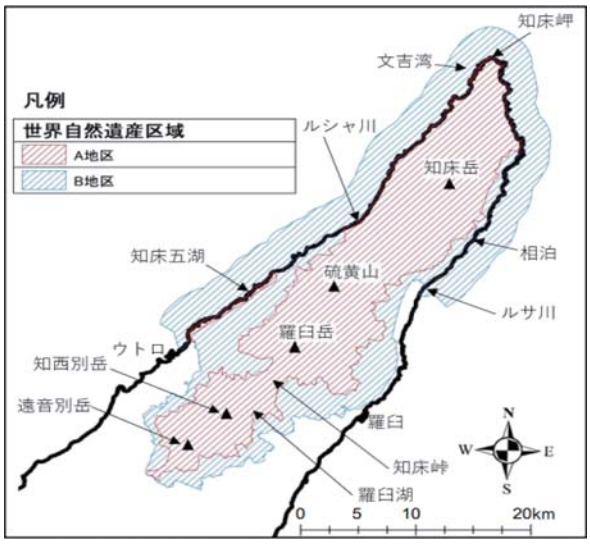


図 1　知床世界自然遺産区域図
（環境省釧路自然環境事務所・林野庁北海道森林管理局・北海道，2023）

図 1 は知床半島の世界遺産区域の区分を示したものである。A 地区は厳格な保全が必要な地域で人間の活動が厳しく制限されている地域であり、B 地区は自然環境の保全と持続可能な観光や農林水産業との両立を図ることを目的とした地域である。知床岳や羅臼岳などの山々が連なる知床連山や、手つかずの原生林に囲まれた神秘的な知床五湖やアクセスが限られる知床岬など魅力的な地形が広がっている（環境省釧路自然環境事務所・林野庁北海道森林管理局・北海道，2023）。知床は流氷が接岸する世界最南端の地域であり、この流氷がプランクトンを豊富に供給し、魚類、海獣、さらには陸上の動物へとつながる独特な生態系を形成している。知床は豊かな生態系と希少な動植物が有名で、日本で最もヒグマの生息密度が高い地域の一つであり、それがエコツーリズムのシンボルとなっている。冬にロシア方面から渡

来するオジロワシ・オオワシは、知床の自然を象徴する猛禽（もうきん）類として知られており、その他エゾシカ・キタキツネなど、多くの野生動物が生息している（自然公園財団，2018）。

3. 観光地としての知床

知床は世界自然遺産にも登録された日本屈指のアウトドア観光地である。最大の魅力は、手つかずの大自然と多様な動植物である。世界的にも貴重な自然環境を持ち、多くの野生動物が生息する地域である知床では、自然環境を守りつつ観光を楽しむために、エコツーリズムを促進するなど持続的な観光にも取り組んでおり、観光客が訪れる際には、ルールを守りながら、壮大な自然の魅力を存分に体験することが求められる。また知床では、従来の利用か保全かの関係ではなく、ステークホルダーが協働して価値を生み出すという目的で、知床半島の先端部に近い赤岩地区への動力船によるアクセス提案として、ツアーの試行が行われる（敷田，2024）など、持続的観光の実現に向けての先進的な取り組みも行われている。

図 2 は知床地域における国内観光客数、図 3 は外国人観光客数の過去 10 年間の推移を示したものである。パンデミック（世界的大流行）、コロナ禍と呼ばれたコロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的な流行は、2020 年からおよそ 3 年間継続し、感染対策として旅行や流通に対する行動制限や自粛が各国で実施されたことにより、世界的な経済的混乱が発生した。知床地域の観光も

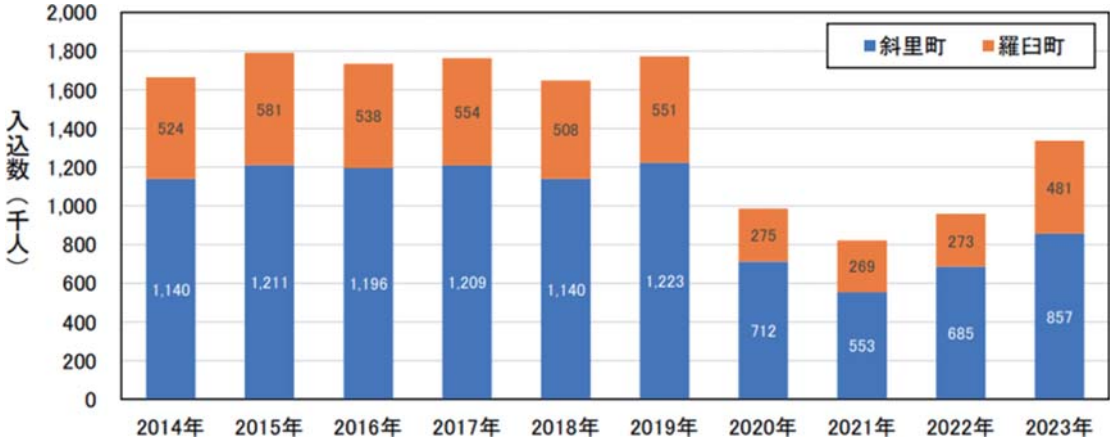


図 2　知床地域における観光客入込数の年推移（2014～2023 年）
（環境省釧路自然環境事務所・林野庁北海道森林管理局・北海道，2023）

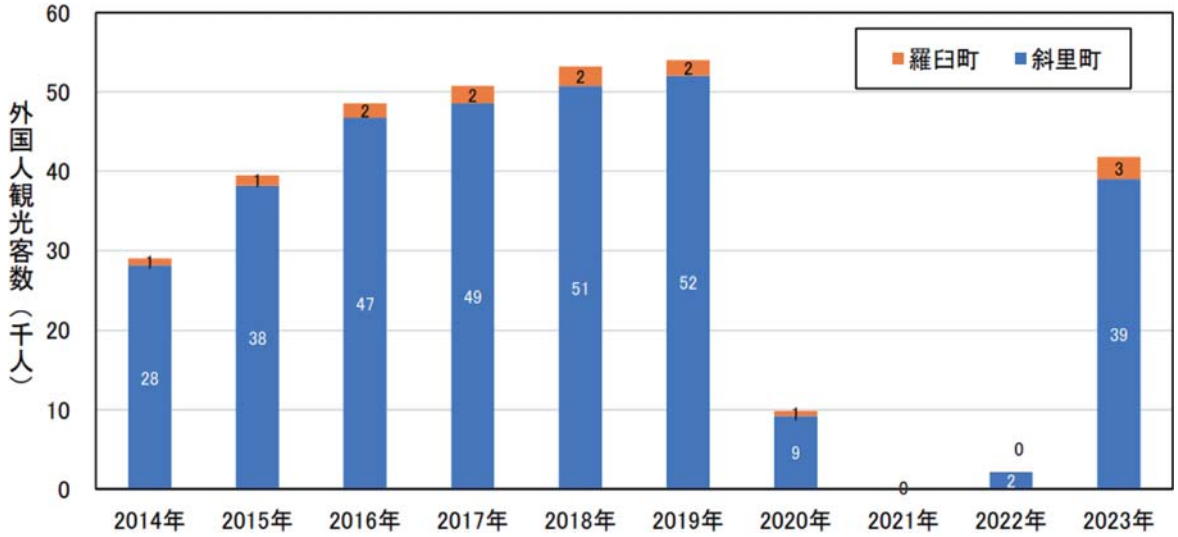


図 3　知床地域における訪日外国人宿泊客数（2014～2023）
（環境省釧路自然環境事務所・林野庁北海道森林管理局・北海道，2023）

また、その質および量ともに大きな影響を受けた。2019 年に 177 万人程度（斜里町 122 万人、羅臼町 55 万人）と推定された観光客入込数は、コロナ禍が本格化した 2020 年から急激に減少し、2021 年には約 82 万人（斜里町 55 万人、羅臼町 27 万人）とコロナ禍前の半数以下の水準にまで落ち込んだ。宿泊客数の減少率はさらに大きく、2019 年比の 4 割程度であった。この間は、観光施設のみならず散策路などの休館・閉鎖が相次ぎ、観光客の受け入れそのものが困難となる期間も発生した。また図 3 に示された通り、コロナ禍前まで増加傾向が続いていた訪日外国人（インバウンド）も 2021 年と 2022 年にはほぼゼロになったが、2023 年から大きく回復した（環境省釧路自然環境事務所・林野庁北海道森林管理局・北海道，2023）。しかしながら 2023 年 5 月に Covid-19 が、5 類に引き下げられた後は、アフターコロナで密をさけたアウトドア観光へのシフトもあり回復基調にある。

知床観光へのアクセスは、西側のウトロと東側の羅臼に大きく分かれる。ウトロでは、夏季のトレッキングやカヤック等のアクティビティの提供、宿泊施設、ビジターセンターなどの観光インフラが整っており、クルーズやフレペの滝や知床五湖など手軽に楽しめる観光の拠点になっている。羅臼はより手つかずの自然があり、オオジロワシやオオワシなどのバードウオッチングや夏季のホエールウオッチングなどのアクティビティ中心である。観光客全体では 7 割、インバウンドに関しては約 9 割がウトロを訪れている。図 4 は、コロナ禍前の 2018 年における各ビジターセンターと観光地の利用者数を示したものであるが、観光客がウトロ地区に集中しているのがわかる。

全体で最も利用者が多かったのが知床五湖の 31.5 万人で、次いで知床自然センターの 21.7 万人、ウトロ観光船 13.6 万人、知床世界遺産センター 10.4 万人、フレペの滝 4.7 万人となっており、多くの観光客がウトロ地区を中心に訪問していることがわかる。それに対して、羅臼地区で 1 万人以上の利用者のあったのは、羅臼ビジターセンターの 4.5 万人と羅臼観光船の 3.3 万人の 2 箇所のみであった。

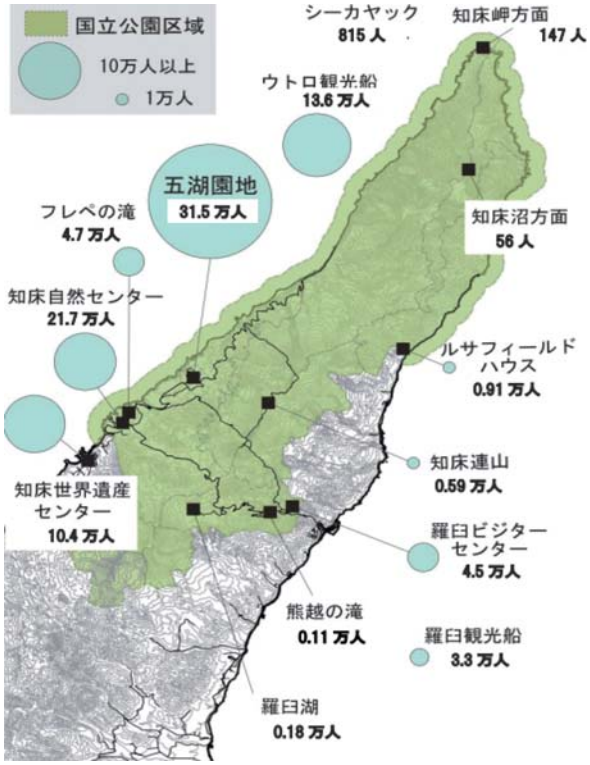


図 4　2018 年の知床世界自然遺産とその周辺地域の利用者数
（環境省釧路自然環境事務所・林野庁北海道森林管理局・北海道，2018）

4. ユニバーサルツーリズムの観点からの知床

①　知床五湖と高架木道

知床でのユニバーサルツーリズムを代表する観光スポットは、車いす利用が可能な知床五湖の高架木道である（秋山他，2010）。知床五湖には、世界遺産登録前から、1 周 3 キロの遊歩道があったが、クマに遭遇したり、植生が荒らされる恐れもあったため、世界遺産登録の 2005 年から高架木道の整備を進めて、2011 年に完成した（日経新聞，2010）。

図 5 は知床五湖の高架木道と遊歩道のコースを示したものである。ビジターセンターである知床五湖フィールドハウスを中心に「地上遊歩道」と「高架木道」がある。4 月中旬から 11 月初旬まで開館している知床五湖フィールドハウスでは、車いすの無料貸し出しサービスや多目的トイレの利用が可能であるほか、軽食やおみやげなどの販売



図 5　知床五湖ルートマップ（車いす利用可能なコース案内）（知床五湖フィールドハウス，2025）



図 6　高架木道の様子（筆者撮影）



図 7　高架木道に置かれた利用者の車いす（筆者撮影）

も行っているため休憩も取ることができる。これにより、車いす利用者や高齢者も安心して散策することができる環境が整えられている。「地上遊歩道」は、クマ活動期（5 月から 7 月）と植生保護期（8 月から 10 月）は、ビジターセンターで事前レクチャーを受けることが義務付けられており、通行料を徴収している。

一方の「高架木道」は、段差がなく傾斜も抑えられているため高齢者や車いすでも安心して利用でき（図 6）、片道 800M の道のりをゆっくり湖や景色を眺めながら歩いても往復で 40 分、車いすを押しながら往復しても 1 時間以内で散策できるようになっている（図 7）。「高架木道」には 7000 ボルトの電気柵が張り巡らされており、ヒグマの出没にも影響されず、周遊することができ無料で利用できる。コース中には 3 カ所の展望台があり、知床連山やオホーツク海も一望できる。図 8 の通り、コロナ禍の時期を除けば、知床五湖の利用者のうち約 4 分の 3 が「高架木道」の利用者となっている。「高架木道」は多くの観光需要

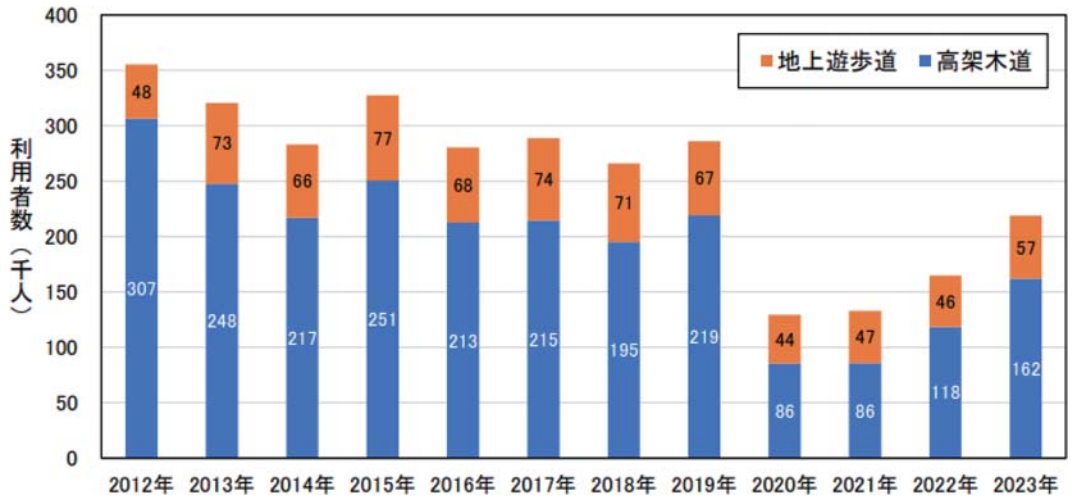


図 8　高架木道の利用状況の推移（2014～2023 年）
（環境省釧路自然環境事務所・林野庁北海道森林管理局・北海道，2023）

を満たしつつ、観光利用と自然保護との両立を実現しているといえる。なお、知床五湖の自然観光資源の利用に関しては、環境省の担当者をはじめ、観光協会や地域住民といった利害関係者が相互の立場を尊重しながら、自由に意見を出し合い柔軟に議論を進め、試行錯誤しながら多元的な価値を認めた上で、制度や規範を地域の特性に適合させる「順応的ガバナンス」が、機能していることが指摘されている（田中，2014）。

②　フレペの滝と周辺遊歩道

知床五湖につぐ来訪者が多いのは、知床自然センターであり、周辺の観光スポットの「フレペの滝」がある。往復および周遊コースで距離約 2 KM のコースで、ゆっくり歩いても 1 時間もあれば周遊できる。夏季はシカやヒグマに、冬季は流氷やオオワシなどに出会うこともある。コースには段差や傾斜があり、車いすでの移動は無理であるが、夏季は高齢者同士でも楽しめるコースとなっている（図 9）。フレペの滝コース以外にも、



図 9　知床自然センター近辺の散策コース図（知床自然センター，2025b）

世界遺産登録に向けたコミュニティー活動に関する展示がある「しれとこ 100 平方メートル運動ハウス」を通るコースも設定されている（知床自然センター，2025b）。

5. 知床でのユニバーサルツーリズムと今後の課題

知床では四季を通じて観光を楽しめるが、冬季は施設や道路も閉鎖され、限定的なエリアでの観光になる。ウトロと羅臼を結ぶ知床林道をはじめ、最も人気のある知床五湖のビジターセンターと高架木道が閉鎖される。その代わりに、冬季の 1 月下旬から 3 月にかけては流氷を見ることができ、遊覧船もバリアフリー対応となっている。知床は、夏は植物や動物を楽しめ、冬は流氷やオオワシの観察など魅力満載の観光地である。バスでの移動やドライブ中にもエゾシカやヒグマなどの動物に出会うこともある（図 10）。2023 年以降ヒグマが観光エリアで目撃される機会が増えている。これまでヒグマの年平均捕獲頭数はウトロ地区の斜里町で 15.5 頭、羅臼町で 10.8 頭であったのが、2023 年には斜里町で 96 頭、羅臼町で 72 頭に大幅に増加している（公益財団法人　知床財団，2023）。ヒグマの出現が観光客、特に高齢者や車いす利用者にとっては、より大きなリスクになるため対応が必要になってくる（山中，2020）。



図 10　国道でのエゾシカ（筆者撮影）

知床世界自然遺産地域に関しては、環境省が提供している国立公園のウェブサイトにおいて、見どころガイド等の情報が提供されており、知床に立地する 5 つのビジターセンターの紹介と各ビジターセンターの独自ウェブサイトへのリンクも掲載されている（環境省，2025）。各ビジターセンターでは、多目的トイレ、物販、カフェをはじめ短編映画や VR ができるなど設備が整っている。表 1 は各ビジターセンターの高齢者や車いす利用者向けコースの概要をまとめたものであるが、先述の通り、ウトロ地区に立地する 3 つのビジターセンターの来訪者数が多くなっている。

環境省のウェブサイトでは、各施設における「多言語対応パンフレットの配布」や「コミュニケーション支援ボード」などのユニバーサルデザインに関する情報がピクトグラムとともに掲載されている。しかしながら、ビジターセンター周囲の散策路を車いすで走行可能かどうかに関する情報を求める場合、各ビジターセンターのウェブサイトで探さなければならない。それに対して、例えばニュージーランドでは、環境省（Department of Conservation）が管轄しているエリア内の散策コースについては、コースレベルを 6 段階にわけて情報をまとめて提供している（表 2）。日本でも、このようにレベル 1「段差のない 1 時間以内のコース」やレベル 2「短いウオーキングコース」の情報を一括して環境省のウェブサイトで提

表 1　世界自然遺産内にあるビジターセンターとユニバーサル関連スポット

地区	ビジターセンター	ユニバーサル関連近隣観光地	2017年 来訪者数	2023年 来訪者数
ウトロ	知床五湖フィールドハウス*	知床五湖の高架木道、車いす通行可能	33.5万人	データなし
ウトロ	知床自然センター	周辺「鹿コース」「フレペの滝」段差あり	19.3万人	23.3万人
ウトロ	知床世界遺産センター	バリアフリー対応遊覧船	10.5万人	9万人
羅臼	知床羅臼ビジターセンター	間欠泉への遊歩道（舗装はなし）	4.3万人	4.4万人
羅臼	知床世界遺産ルサフィールドハウス*	施設から国後島を望む	0.79万人	0.77万人

*冬季閉鎖

表 2 ニュージーランド環境省によるコース分類（一部抜粋）（Department of Conservation, 2025）

レベル	コースレベル	時間	コースに適した人々	ピクトグラム
1	最も簡単な徒歩コース	1時間以内	車いす、ベビーカーを含む人々	
2	短いウオーキング	1時間以内	ほとんどの年齢層と健康状態の人々。	
3	ウオーキング	1日	中程度のフィットネスと基本的なバックカントリー（遠隔地）のスキルと経験を持つ人。	
4	簡単なトレッキングコース	日帰りまたは複数日にわたるトレッキング	中程度のフィットネスと基本的なバックカントリーのスキルと経験を持つ人。	
5	トレッキングコース	1日コース、または数日間にわたるトレッキング	中級から上級レベルのフィットネスとバックカントリーでのスキルと経験を持つ人。	
6	エキスパートコース	1日コース、または数日間にわたるトレッキング/ハイキング。	高いフィットネスレベルとバックカントリー（遠隔地）でのスキルと経験を持つ人。	

供できれば、車いす利用者や高齢者が観光に活用しやすくなるであろう。

国土交通省観光庁庁観光産業課（2023）によるユニバーサルツーリズムに関する調査業務報告書において、外出に何らかの不自由がある高齢者や障がい者にとって観光の妨げになる課題が解決されれば、高齢者では 52.5%、障がい者では 35.9%、市場規模が拡大すると試算されている。知床地域ではビジターセンターなど施設がすでに充実しており、車いす利用者や高齢者への対応が十分可能であるので、今後より積極的に車いす利用者や高齢者向けのコース情報の提供を進め、利用促進を図っていくことが有効であろう。

謝辞

知床半島での調査にあたっては、ウトロ自然保護官事務所および羅臼自然保護官事務所のスタッフの方に情報提供をいただきました。ここに感謝いたします。

本研究は JSPS 科研費 JP23H03645 の助成を受けたものである。

引用文献

秋山哲男・松原悟朗・清水政司・井澤岬・江守央（2010）．観光のユニバーサルデザイン：歴史都市と世界遺産のバリアフリー　学芸出版社.

環境省（2025）．知床国立公園　アクセス・施設
https://www.env.go.jp/park/shiretoko/access/index.html
閲覧：2025 年 3 月 22 日

環境省釧路自然環境事務所・林野庁北海道森林管理局・北海道（2018）．知床白書　平成 30 年度　知床世界遺産地域年次報告書
https://shiretokodata-center.env.go.jp/data/research/annual_report/H30annual_report.pdf

環境省釧路自然環境事務所・林野庁北海道森林管理局・北海道（2023）．知床白書　令和 5（2023）年度知床世界遺産地域年次報告書「知床世界自然遺産地域区域図」「斜里町と羅臼町における年間捕獲頭数の統計情報」
https://shiretokodata-center.env.go.jp/data/research/annual_report/R5annual_report.pdf
閲覧：2025 年 3 月 22 日

国土交通省観光庁庁観光産業課（2023）．ユニバーサルツーリズムに関する調査業務報告書
https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001754475.pdf
閲覧：2025 年 3 月 22 日

自然公園財団（2018）．国立公園ガイドブック　知床「パークガイド」

知床五湖フィールドハウス（2025）．世界自然遺産・知床国立公園　知床五湖「散策路・高架木道」
https://www.goko.go.jp/elevated_wooden_path.html
閲覧：2025 年 3 月 22 日

知床自然センター（2025a）．しれとこ 100 平方メートル運動の森・トラスト
https://100m2.shiretoko.or.jp/about/
閲覧：2025 年 3 月 22 日

知床自然センター（2025b）．知床ホロベツ散策コース
https://center.shiretoko.or.jp/walking
閲覧：2025 年 3 月 22 日
公益財団法人　知床財団（2023）．活動報告書アニュアルレポート 2023
https://www.shiretoko.or.jp/wps/wp-content/uploads/2024/08/2023_fe.pdf
閲覧：2025 年 3 月 22 日
敷田麻実（2024）．ステークホルダーによる社会的共有価値の創出－知床世界自然遺産管理の提案制度の事例－．環境経済・政策研究，*17*（1），80-83.
田中俊徳（2014）．自然観光資源の管理をめぐる順応的ガバナンスの研究－知床五湖利用調整地区導入における合意形成過程の事例－．人間と環境，*40*（3），20-36.
日本経済新聞（2010）．知床にクマよけ効果歩道、電気柵、自然保護にも
https://www.nikkei.com/article/DGXNASDG3001H_R30C10A5CC0000/?msockid＝361c8d64f41d664b16488039f58c673d
閲覧：2025 年 3 月 22 日
竹内敏彦（2023）．インクルーシブツーリズムの概念を含む，ユニバーサルツーリズムの更なる概念提示．日本国際観光学会論文集，*30,* 111-118.
村田良介（2006）．しれとこ　100 平方メートル運動から世界遺産へ．環境社会学研究，12, 72-76.
山中正実（2020）．知床のヒグマと人の関わりの現状と課題について．環境共生，*36*（1），87-92.
渡辺悌二・海津ゆりえ・可知直毅・寺崎竜雄・野口健・吉田正人（2008）．観光の視点からみた世界自然遺産．地球環境，*13*（1），123-132.
Department of Conservation（2025）. Walking track categories
https://www.doc.govt.nz/parks-and-recreation/things-to-do/walking-and-tramping/track-categories/
閲覧：2025 年 3 月 22 日